第３章　野洲市内出土の小型釜とその周辺

はじめに

野洲市内では小型釜が散発的ではあるが出土することがある。小型釜は脚部をもつ三足釜の小型品（小型三足釜）や、土師器釜・瓦質土器釜の小型品を指す。本稿では小型釜について整理して、市内の埋蔵文化財に係る基礎資料のひとつとすることと、野洲周辺の小型釜と比較することで形状や出土時期等についての検討を行いたい。

なお小型釜としては口径が 11㎝未満のものを扱う。集成段階では 14㎝前後の小型品も多く確認したが、標準サイズである 20㎝前後の半分以下と想定されるものを小型品として扱った。

研究史

小型釜について、以下のような研究史がある。宇野隆夫氏は中世食器様式を概観し、煮炊具について言及する中、ミニチュアの小型釜を取り上げている。ここでは小型釜を京都・鍋の資料として提示しており、使用痕についても注目している [宇野 1997]。また同時期に、鋤柄俊夫氏によっても取り上げられており、京都で散発的に出土することから、中世Ⅰ期後半以降の土製煮炊具の資料として提

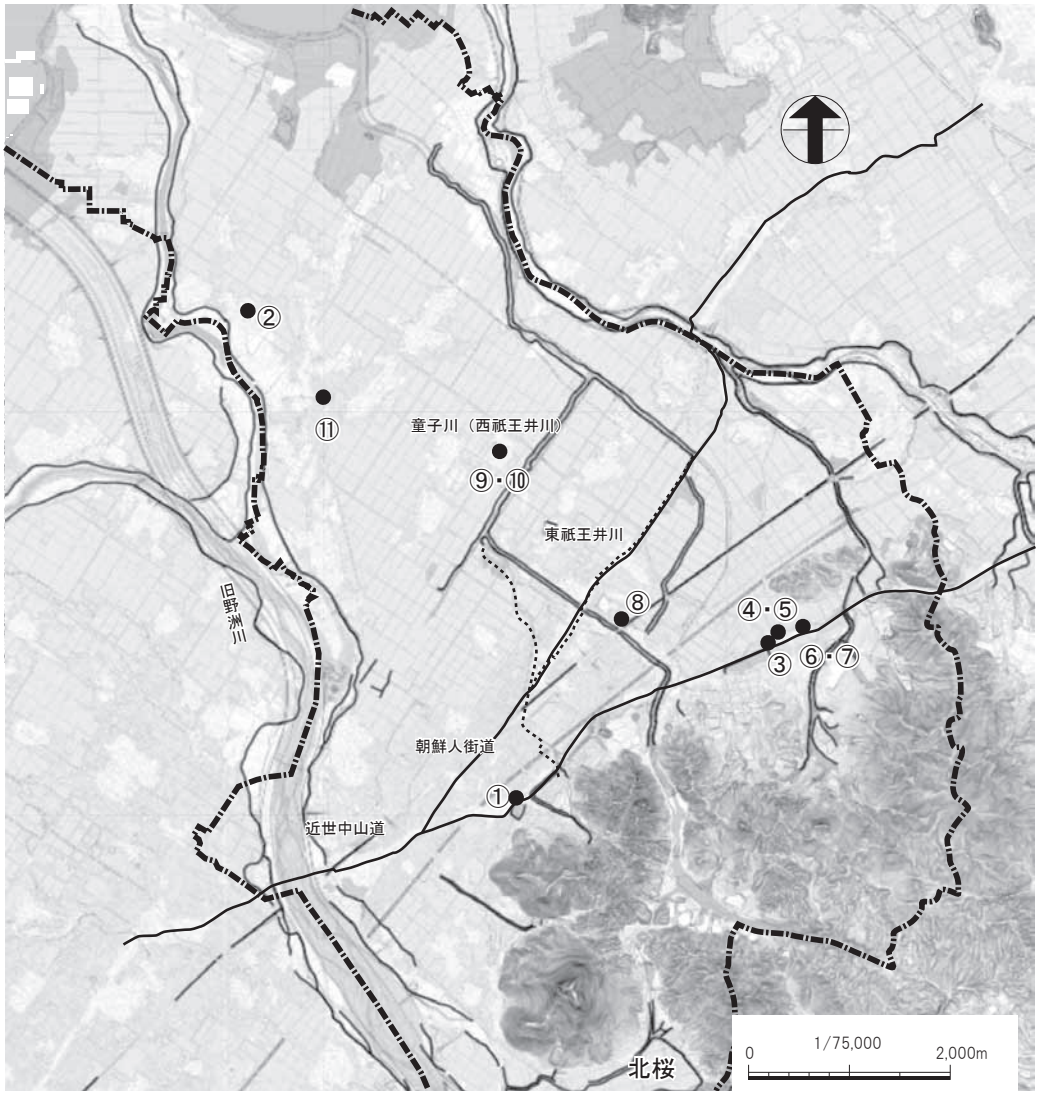

図１　野洲市出土小型釜位置図
（国土地理院地図をベースマップに使用）

示されている [鋤柄 1997]。また奥井智子氏も北山城の土製煮沸具の様相を示す中で小型品についても述べており、12 世紀後半以降、三足釜を金属模倣品と捉えるとともに口径が 10㎝ほどの小型品もほぼ並行して確認できるとしている　[奥井 2007]。また新田和央氏も中世後期の煮炊具の変遷を述べる中で、小型三足付羽釜は中世後期にも存続するとし、実用品とは考えられないとしている [中井・佐藤・新田 2022]。

以上のように小型釜、また小型三足釜は主に京都から出土するものとされ、中世の資料として報告されてきた。

問題点

上記のように小型釜は京都を中心に報告されており、近江において小型釜の出土事例が散発的であることも相まって把握・集成作業が行われていない。また時期的な変遷や他地域との形状の比較を行えていない現状にある。

１. 野洲市内の出土事例

野洲出土の小型釜については一部報告書内で集成されている [1]。その後の調査で追加された資料もあり、新たに紹介する。

①小篠原遺跡

令和３年（2021）に行われた調査で土坑（SX01）から出土している。当遺構からは土師器釜が出土している [2]。 また SX01 を切る SK04 からは黒色土器椀や壺（信楽）等が出土している。

当調査では瓦質土器三足釜 が多量に出土している [3]。担当者は確認された 55 基以上の土坑を採土土坑と想定し、瓦質土器三足釜が接合関係の個体がないことからも近接地で生産され、破断面が黒化した個体があることから、焼成途中に破断して不良品となった個体を処分したと想定している [4]。当該地周辺で生産されていたと仮定すると小型三足釜と瓦質土器三足釜は同じ工人集団によって製作されていたことが考えられる。

②井口遺跡

平成 22 年(2010)の調査で遺物包含層より出土している。遺物包含層は土師器皿(Sh)、焙烙や甕(信

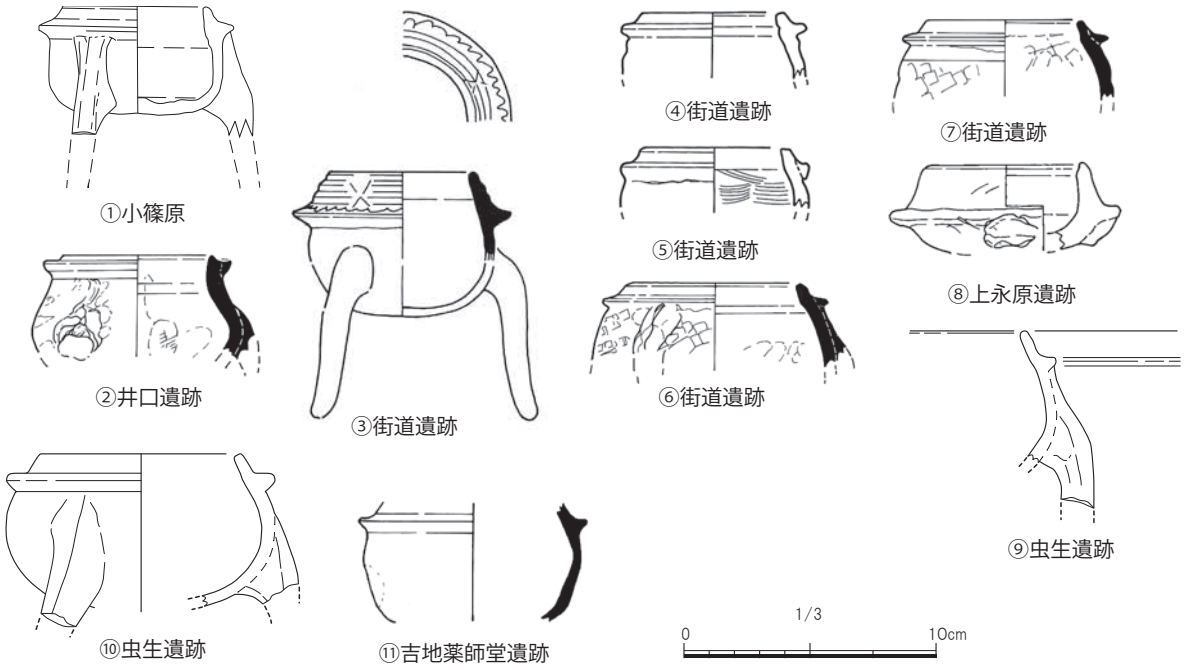

図２　野洲市出土小型釜

楽）など 14 世紀後半～ 15 世紀代の遺物を含む。黒色土器椀は出土しておらず、遺物包含層の年代としては 13 世紀までは遡らないと考えられる。

③街道遺跡

昭和 60 年（1985）に行われた調査で SD01 から出土している。SD01 からは青磁碗、土師器釜、瓦質土器釜、土師器皿、山茶碗、片口鉢・甕（常滑）などが出土している。

なお、SD01 出土土器は森隆氏が近江の土器編年Ⅲ―3 段階の基準資料として挙げている資料となる [森 1986]。森氏の編年ではⅢ段階は 13 世紀後半～ 14 世紀とし、Ⅲ -3 段階は 14 世紀初頭としているが、SD01 では土師器皿で京都の７Ａ -7 Ｂ段階ものが含まれ、常滑の甕（5 ～ 6ａ型式）や片口鉢の型式（6a 型式）から見ても 13 世紀後半から 14 世紀初頭とした方が正しいと思われる [5]。また口縁端部内面に沈線が確認できないことから黒色土器生産の終焉に近づく時期と想定される [6]。これは黒色土器椀の時期の重要な問題を内包しており、野洲において黒色土器生産は 14 世紀初頭～

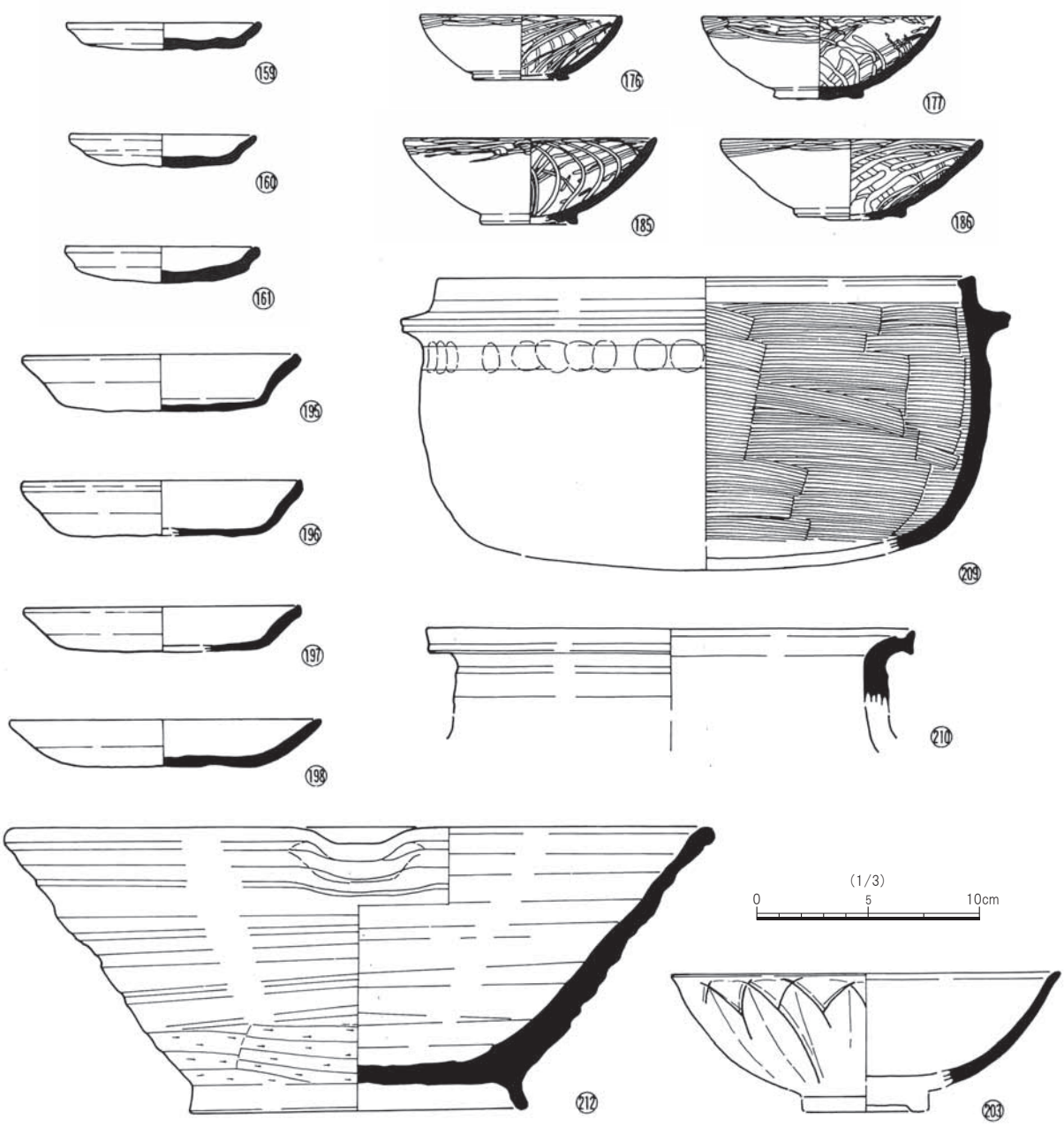

図３　街道遺跡　SD01　出土遺物

前半で終焉を迎える可能性がある[7]。

なお、後述するようにSD01から出土している小型三足釜（③）はいぶしが良好で口縁端部外面に段をもつことから京都からの搬入品の可能性が高い[8]。

④街道遺跡

平成18年（2006）に行われた調査で包含層から出土している。

⑤街道遺跡

④と同じ調査でSD404から出土している。SD404からは土師器皿、黒色土器椀も出土している。時代は13世紀と考えられる。

⑥街道遺跡

平成22年（2010）に行われた調査でSX01から出土している。SX01からは土師器皿、黒色土器椀、瓦質土器釜、瓦質土器三足釜、甕（常滑）が出土している。時代は13世紀中～14世紀初頭と考えられる。

⑦街道遺跡

⑥と同じ調査で包含層から出土している。

⑧上永原遺跡

平成21年（2009）に行われた調査でSD01から出土している。SD01からは土師器皿、黒色土器椀、焙烙、管状土錘、東播系須恵器鉢（Ⅲ－４類）、土師器壺、瓦質土器火鉢などが出土している。SD01は様々な時期の遺物が出土しているが13世紀代の土器が主体を占め、16世紀に埋没したと考えられる。

⑨虫生遺跡

令和５年度の調査でSD10から出土している。溝の年代としては５～６ａ型式の片口鉢（常滑）や7A段階の土師器皿、黒色土器椀等から13世紀中～後半と想定できる。SD10は下層の遺構であり、上面の遺構からも13世紀後半～14世紀前半の遺物（片口鉢・常滑、黒色土器椀など）が出土することから[9]ごく短時間で埋没したと想定できる遺構である。

またSD10出土遺物は外面に煤が付着した瓦質土器三足釜や黒色土器椀、土師器皿、内外面に刃物傷がみられる折敷の底板などが含まれ、当時のごく一般的な食膳様式を示していると考えられる[10]。

⑩虫生遺跡

⑨と同じ調査で包含層から出土している。⑨の個体とは破断面の胎土が若干違うことから別個体と考えられる。

⑪吉地薬師堂遺跡

昭和63年（1988）の調査でSX11103から出土している。SX11103からは土師器皿、黒色土器椀、東播系須恵器鉢（Ⅲ－１類）なども出土している。

なお吉地薬師堂遺跡からは14世紀代の山茶碗（東濃型）や石鍋[11]、至徳４年の墨書を持つ直縁大皿なども出土している[12]。搬入土器が比較的多く出土することから湖上交通と深いかかわりのある遺跡であることが想定される。

2. 野洲市内の出土事例の特徴

（1）形状について

野洲市内出土小型釜は口縁端部外面にミガキなどが施され、段となるものは少ない。また鍔部は上方に丸みを帯びながら上がるものと（②）、下方に丸みを帯び下がるもの（⑥・⑦）、そのまままっすぐ横方向に貼り付けるもの（④・⑧・⑩）などが確認できる。また、鍔部と脚部が離れるもの（②）、

鍔部直下ないし鍔部に脚部が付着する形のもの（⑥・⑧・⑨・⑩）がある[13]。

(2) 出土場所について

野洲市内では近世中山道沿いに位置する街道遺跡の出土例が４例と多い。また上永原遺跡（⑧）の北側には近世の朝鮮人街道が通るが、朝鮮人街道は中世段階でも美濃下街道として機能していた。また井口遺跡（②）、吉地薬師堂遺跡（⑪）は旧野洲川、また湖岸近くに位置している。虫生遺跡（⑨・⑩）についても南側に童子川が通る。童子川は西祇王井と呼ばれ、流路が条里制地割の規制を強く受けた人工河川である。祇王井川は平清盛の寵愛を受けた祇王が平清盛に申し出て開かれた用水と伝わる河川で、佐野静代氏は文献資料や水利、荘園との関係性などから祇王井は１２世紀頃には開削されていたと考えられるとしている [佐野 1997]。

上記のことから、小型釜は街道沿い、もしくは河川、湖岸などの近くで出土する傾向があることが判明した。このことから湖上交通・陸上交通との関わりが示唆され、絶対数としては少ないものの一定程度三足釜は運ばれている可能性がある。また中山道沿いの小篠原遺跡周辺で生産されていたとすると、そのまま街道を通じ運ばれていた可能性がある。

(3) 時期について

野洲市内では 13 世紀代のものが多く、14 世紀代のものも確認できる[14]。

(4) 用途について

小型釜の用途について、各氏の見解を整理する。

宇野隆夫氏はミニチュアの小型釜について、火にかけた痕があり、何らかの煮炊に用いたことがわかるとし、煎じ薬等の用途を想定している [宇野 1997]。また森隆氏も香炉と想定している[15]。一方で鋤柄俊夫氏は釜の小型品について、そのままの器形で金属製品との関係がうかがわれ、成形が極めて精巧であり、底部外面などの被熱痕跡も明瞭でないため、日常品ではない使われ方も考えるべきとしている [鋤柄 1995]。また新田氏も実用品とは考えられないとしている [中井・佐藤・新田

(1) 街道遺跡（⑥）

(2) 吉地薬師堂遺跡（⑪）

(3) 虫生遺跡（⑩）

(4) 井口遺跡（②）

図４　野洲市出土小型釜使用痕

2022]。

このように小型釜の用途として、実用品という意見と共に実用品でない、もしくは日常的な使い方ではないという意見がある。

野洲市出土の小型釜には被熱痕が確認できるものがある。以下被熱痕や煤の付着状況に注目し用途について若干検討を行いたい。

（１）街道遺跡（⑥）

外面と口縁端部内面に煤が付着し、体部外面に一部炭化物が確認できる。内面の喫水線はさほど荒れない。

（２）吉地薬師堂遺跡（⑪）

外面下部に煤・炭化物が付着する。煤は底部にかけてより強く付着する。

（３）虫生遺跡（⑩）

外面鍔部以下全面に煤が付着する。煤は底部にかけてより強く付着する。炭化物の付着（コゲ）は確認できず、複数回の使用とは考えにくい。

（４）井口遺跡（②）

外面下部に一部煤が付着する。煤は底部にかけてより強く付着する。下から熱を受けたと想定できる。コゲは確認できず複数回の使用とは考えにくい。

以上のように野洲市出土の小型釜には煤などの使用痕が確認できる例がある。一方で煤が付着していないものも認められる（④・⑤）。なお焼成はやや軟質のものが多い。

また使用している例は基本的に外面鍔部より下に煤が認められることから真下から熱を受けていることがわかる。また内面に粒状剥離が認められず内面にオコゲや汚れなどが不明瞭なため、汁物もしくはゆでるなど煮炊きとして使った可能性がある。一方で煤やコゲはさほど集積しておらず、使用頻度としてはさほど多くなかったと思われる。

３.野洲市周辺の事例（滋賀）

以上野洲市内出土の事例を取り上げたが、次に滋賀県内出土小型釜と若干の比較を行いたい。なお実測図では小型三足釜と同時に脚部が不随しない小型釜も集成した。小型釜に関して、本来脚部が不随するが残存度から脚部の図化が行われていないものも多くあると思われる。

(1) 形状について

滋賀県内の出土のものは野洲市内出土のものと同様に鍔部は上方に丸みを帯び上がるものと下方に丸みを帯び下がるもの、そのままま っすぐ横方向に貼り付けるものなどが確認できる。一方で小型釜が同じ遺構からまとまって出土した法勝寺遺跡出土小型釜は様々な鍔部形状をもつことから鍔部の形状は製作者個人レベルでの差の可能性がある。

(2) 出土場所について

出土遺跡の分布としては野洲郡・栗太郡など湖南部が多い傾向がある。また湖岸に比較的近い箇所での出土が多い。特質すべきは大津の関津遺跡･関津城遺跡から７個出土していることが挙げられる。関津遺跡は琵琶湖湖上交通の南側の終着点で倉敷地と考えられる遺跡であり、北陸・東海物資は関津遺跡で集積（選別・積み替え？）されていた可能性が指摘されている [佐藤 2024]。近江で生産された小型釜は関津で集積、もしくは携行品として運ばれたため、関津からの出土数が多いと想定される。

一方で坂本城遺跡・坂本里坊遺跡など坂本周辺からも多く出土している。また出土した小型三足釜に関しては口縁端部外面に沈線が確認でき段となる（㊴）。後述するように京都から出土している小型三足釜は口縁端部外面に段を持つ例が非常に多い。中世において坂本は、東国・北陸から京都への

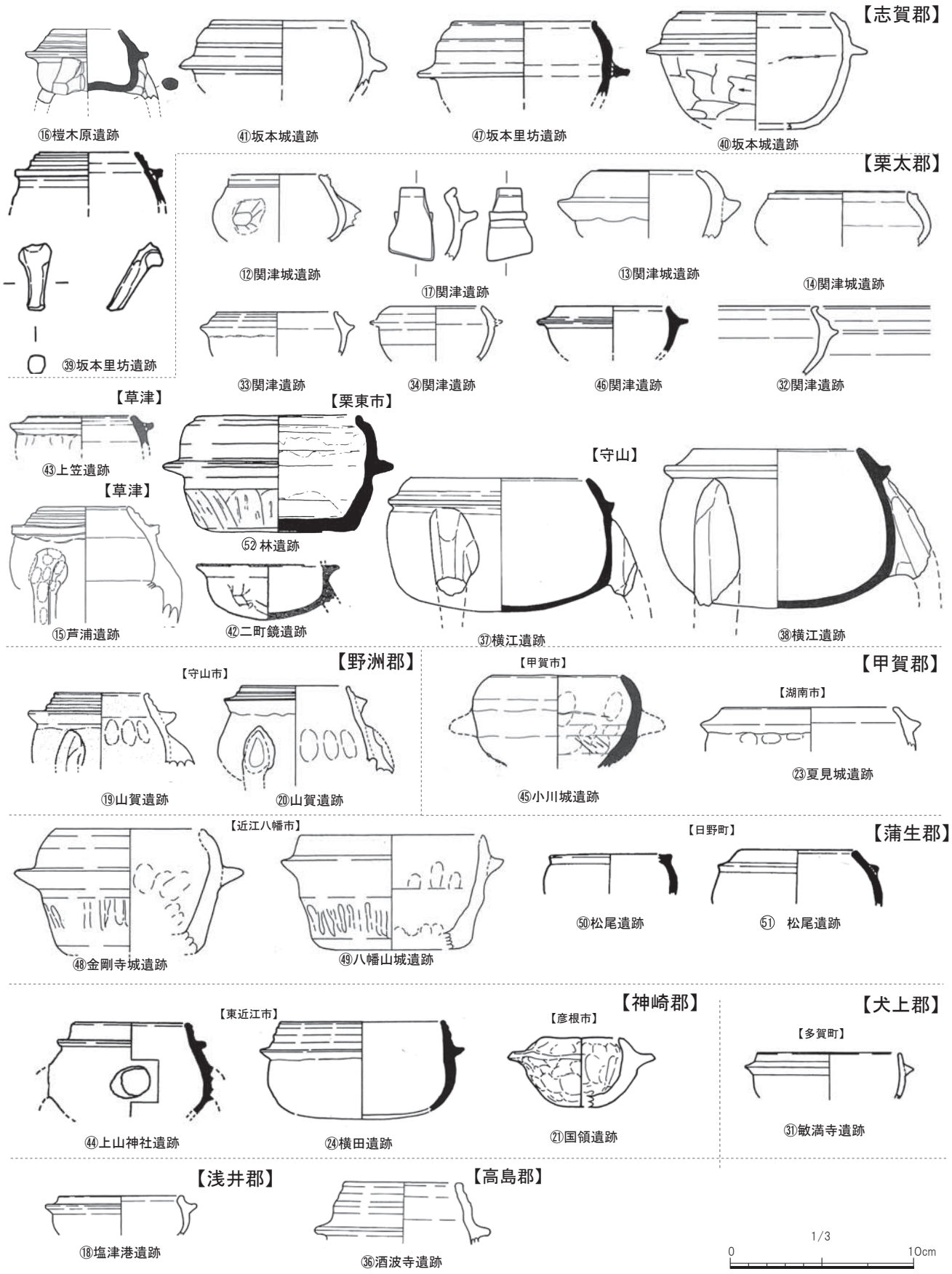

図５　滋賀県内出土小型釜 (1)

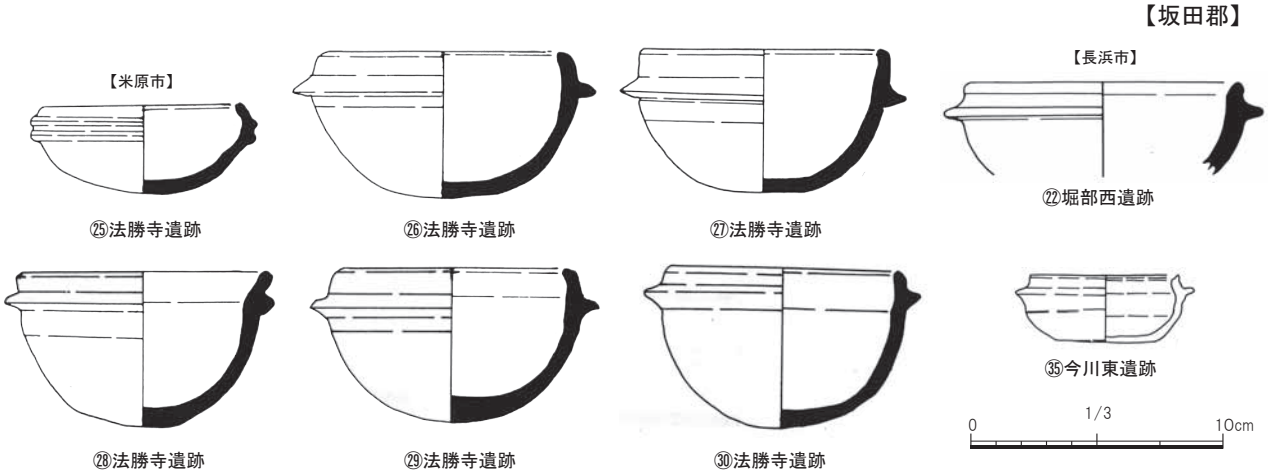

図６　滋賀県内出土小型釜 (2)

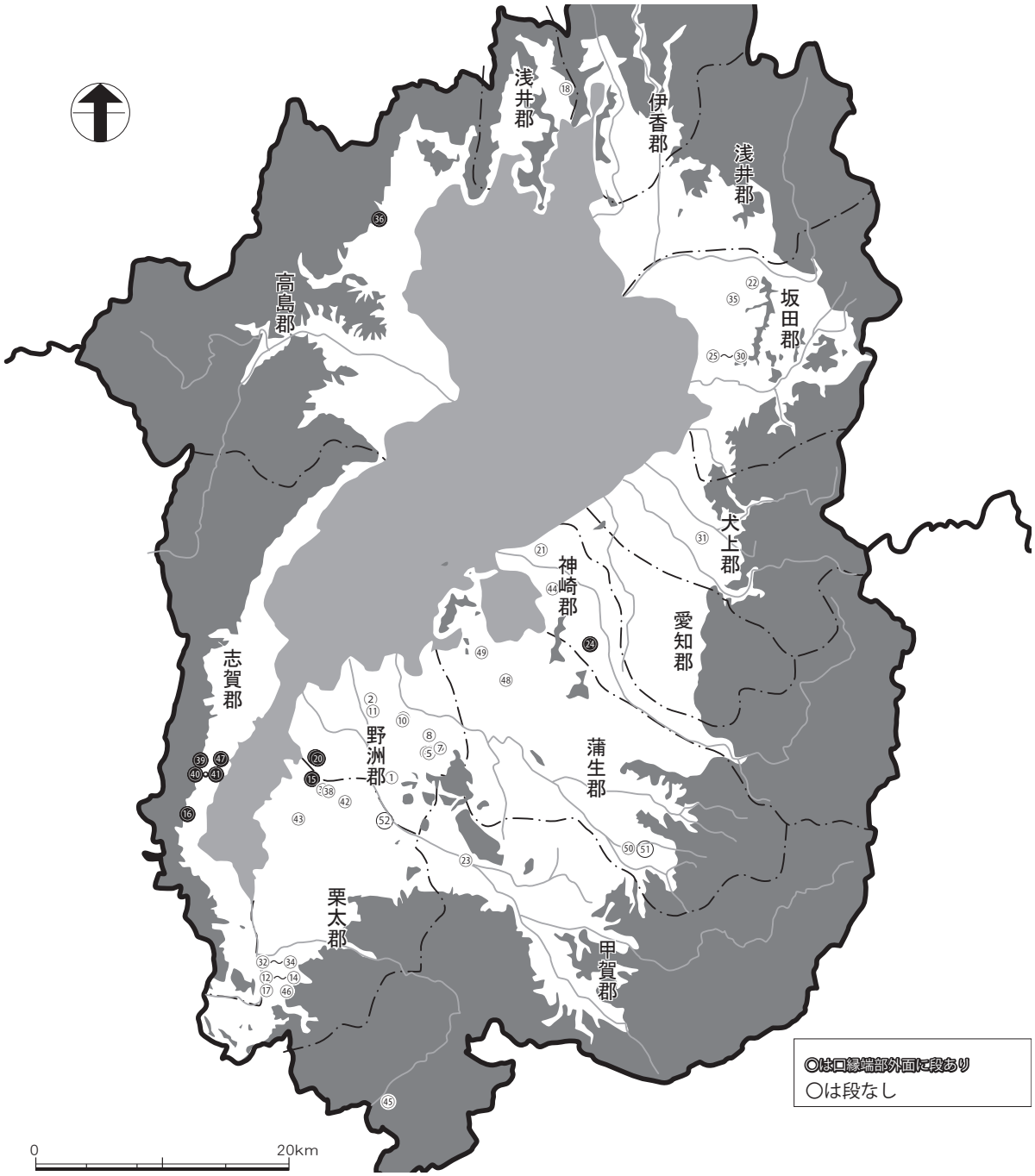

図７　滋賀県内出土小型釜分布図

物資輸送の要衝としての役割を果たし、多くの交通業者である馬借や車借、金融業を営む土倉、問屋、商人が集住しており、各地の山門領から集められた年貢・物資は、下坂本から上坂本へ、そして延暦寺へと運送された [大津市教育委員会 2003]。これらのことから坂本は京都と関わりが強いことが小型三足釜の形状からも裏付けられる。

（３）時期について

時期としては 13 世紀～ 14 世紀のものが多い [16]。なお、11 世紀末～ 12 世紀前半の法勝寺出土例も見られる一方、15 ～ 16 世紀代にも確認できる。

4. 野洲市周辺の事例（京都など）

小型釜は京都からも出土することから、今度は京都出土の事例も取り上げたい【図 8】[17]。京都出土の小型三足釜については口縁端部外面にミガキを施し段となるものが圧倒的に多い。一方脚部をもたないものに関しては段を持たないものが多く出土している。京都出土のものは 13 ～ 14 世紀代のものが多く、一部 15 世紀代にも確認できる [18]。

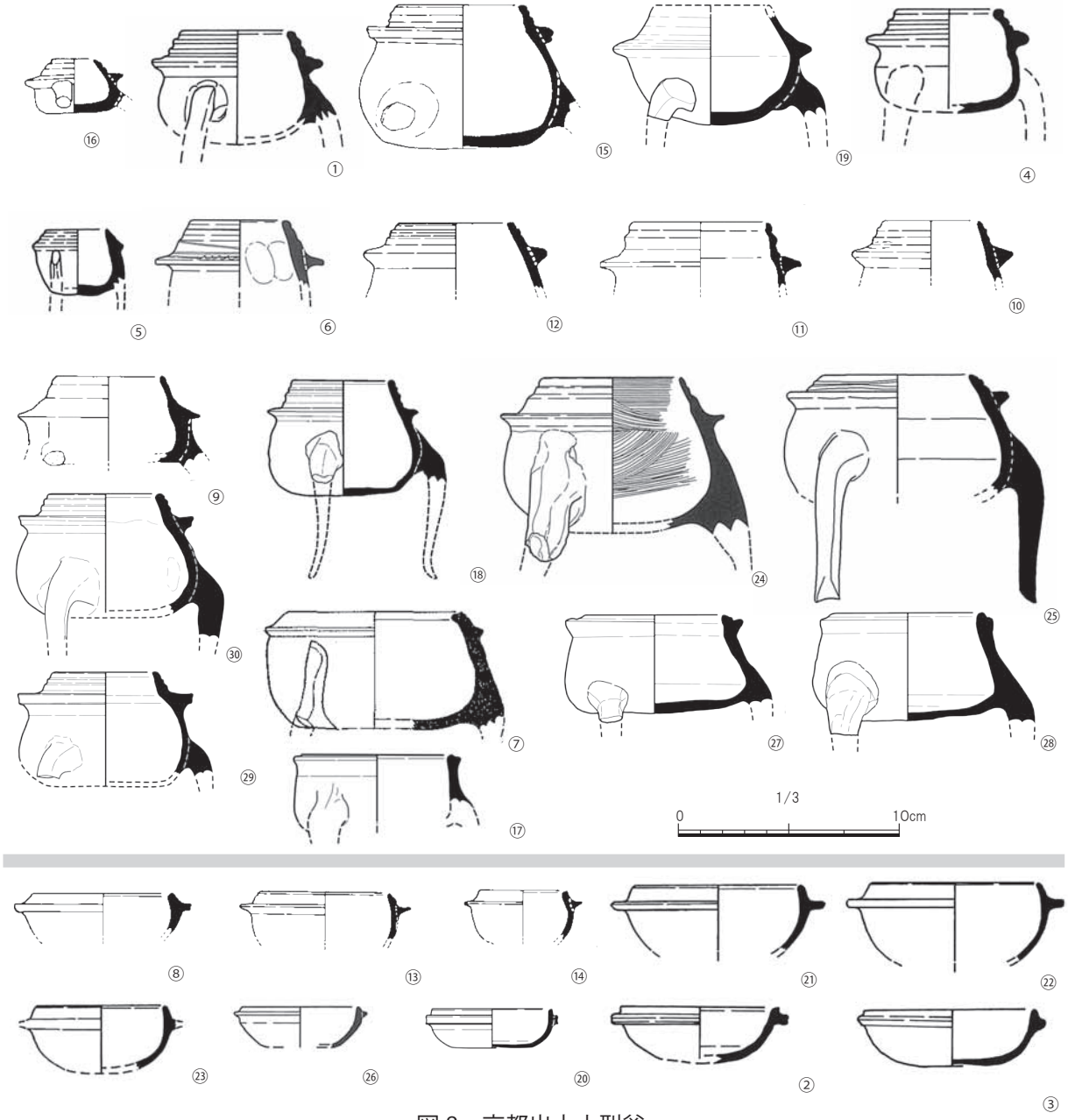

図 8　京都出土小型釜

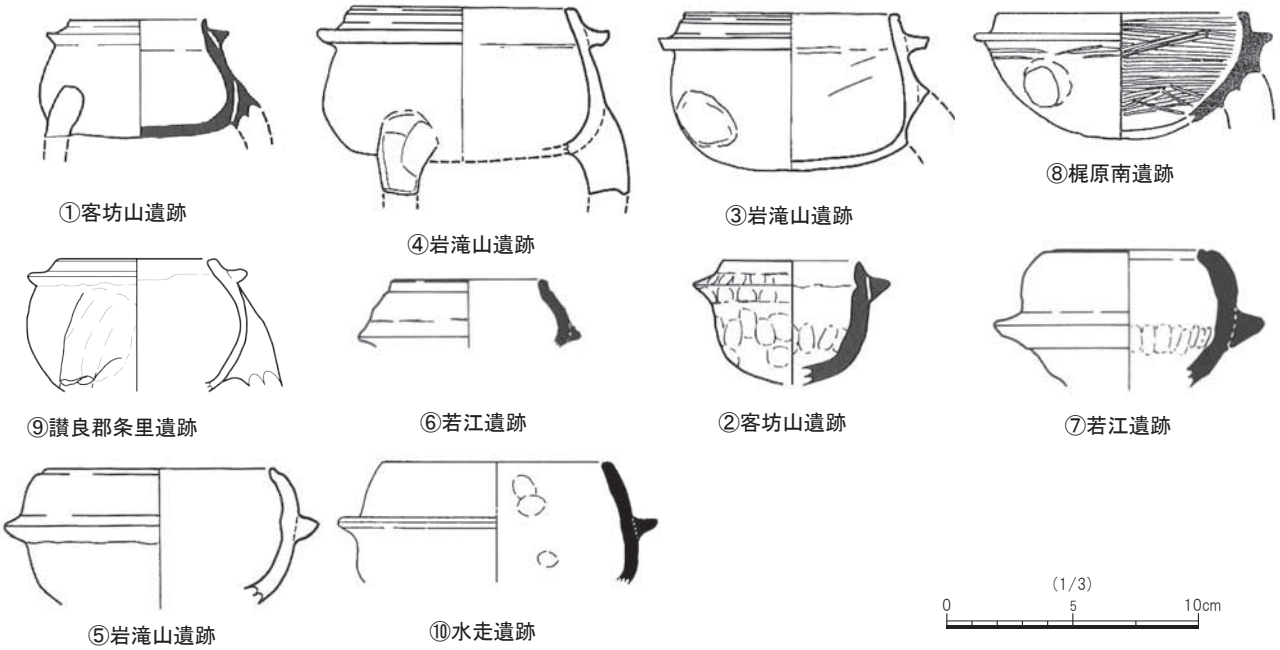

図９　大阪出土小型釜

また小型釜は大阪からも出土する【図 9】。樟葉周辺の小型釜（⑧・⑨）は脚部が比較的厚く[19]、和泉周辺の小型釜は脚部が鍔部と離れ、比較的脚部が薄い傾向にあるようである（①・③・④）。

以上野洲周辺の事例を挙げた。このように各地域によって若干形状の差異があるようである。またこれによって小型釜の産地の特定や形状の影響等を指摘できる可能性がある。

では形状以外には差異が現れるのか口径に着目して比較を行いたい【図 10】。母数が少ないものの、各地域とも 6 cm 前後のものが多い。また若干の差があるものの滋賀や大阪出土の小型釜は 6 cm 前後と 8 ～ 9 cm 前後の 2 段階のピークがみられる。口径 9 ㎝をピークとするものは一人用に対応する可能性があり、口径 6cm 以下のものと用途が違う可能性もある。京都出土の小型釜・小型三足釜に関しては 3 cm 未満のものがある一方、 4 ～ 8 cm の一つのピークに集中している。 3 cm 未満のものは実用品と考えにくいことから京都出土のものは他地域と若干様相が異なるようである。

5. 野洲周辺出土事例と野洲出土事例の形状と変遷について

宇野氏は三足の土釜について、胴部最大径の位置、頸部などの形態により変遷を追えるとしている [宇野 1997]。また三足釜は口縁部内傾気味から外傾していく方向へ変化があるという [中井・佐藤・新田 2022]。ここでは小型三足釜の変遷を鍔部や脚部の位置からも分析を試みるのと同時に口縁部の傾きなどが三足釜と同様の変遷をたどるか検討したい。

【図 11】が変遷表である。小型三足釜に関して、時代を経ると京都では鍔部が上に上がることで口縁部が短くなる傾向にある。これは滋賀でも同様で 15 世紀～ 16 世紀には口縁端部から鍔部の間隔がかなり短いものも登場する（②・⑫・⑬）。鍔部も形骸化し鍔部の張り出し高さも低くなる。また鍔部は上に上がることで脚部と鍔部の間隔は開く傾向にある。14 世紀前後に鍔部と脚部が離れはじめるがこれは各地域とも同じようである。また通常サイズの三足釜のように時代の変化に伴い口縁部内傾気味から外傾していく傾向も小型三足釜で確認できる。山科本願寺跡出土のものなど（⑰・㉗・㉘）は体部が直立気味になり、それに伴い口径も大きくなっている。

脚部を持たないと判断できるものに関しては【図 12】を作成した。なお本来は焼成から瓦質のものと土師器のものを分けるべきであるが、小型三足釜でも土師質のものがあることや実見していないのもあり分別せず純粋に脚部を持たないものを取り上げた。

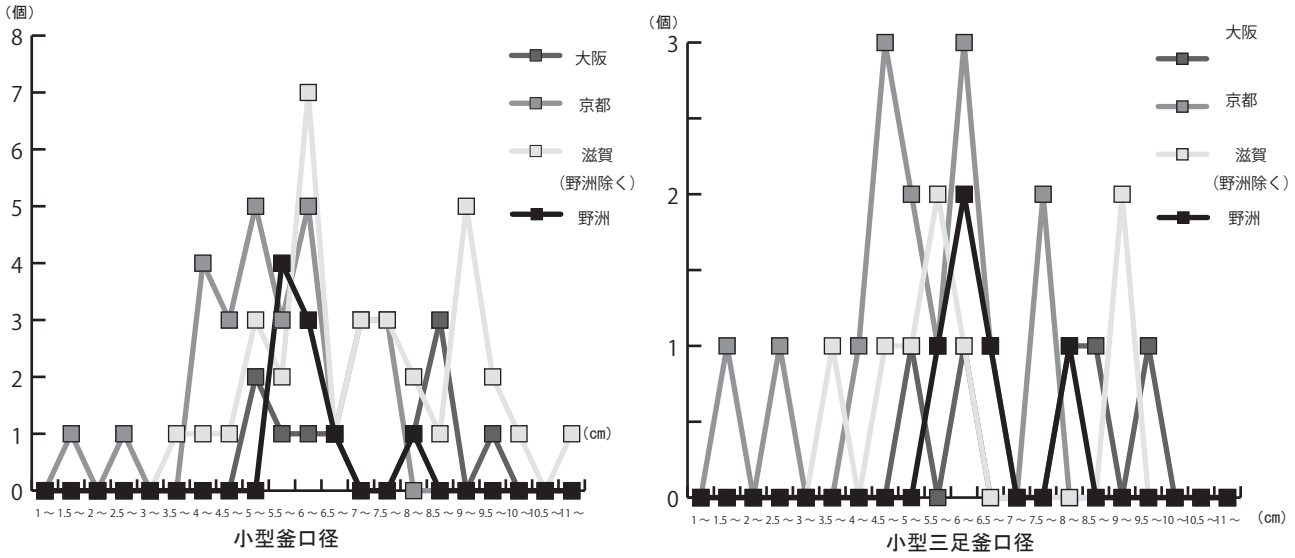

図 10　小型釜口径比較図

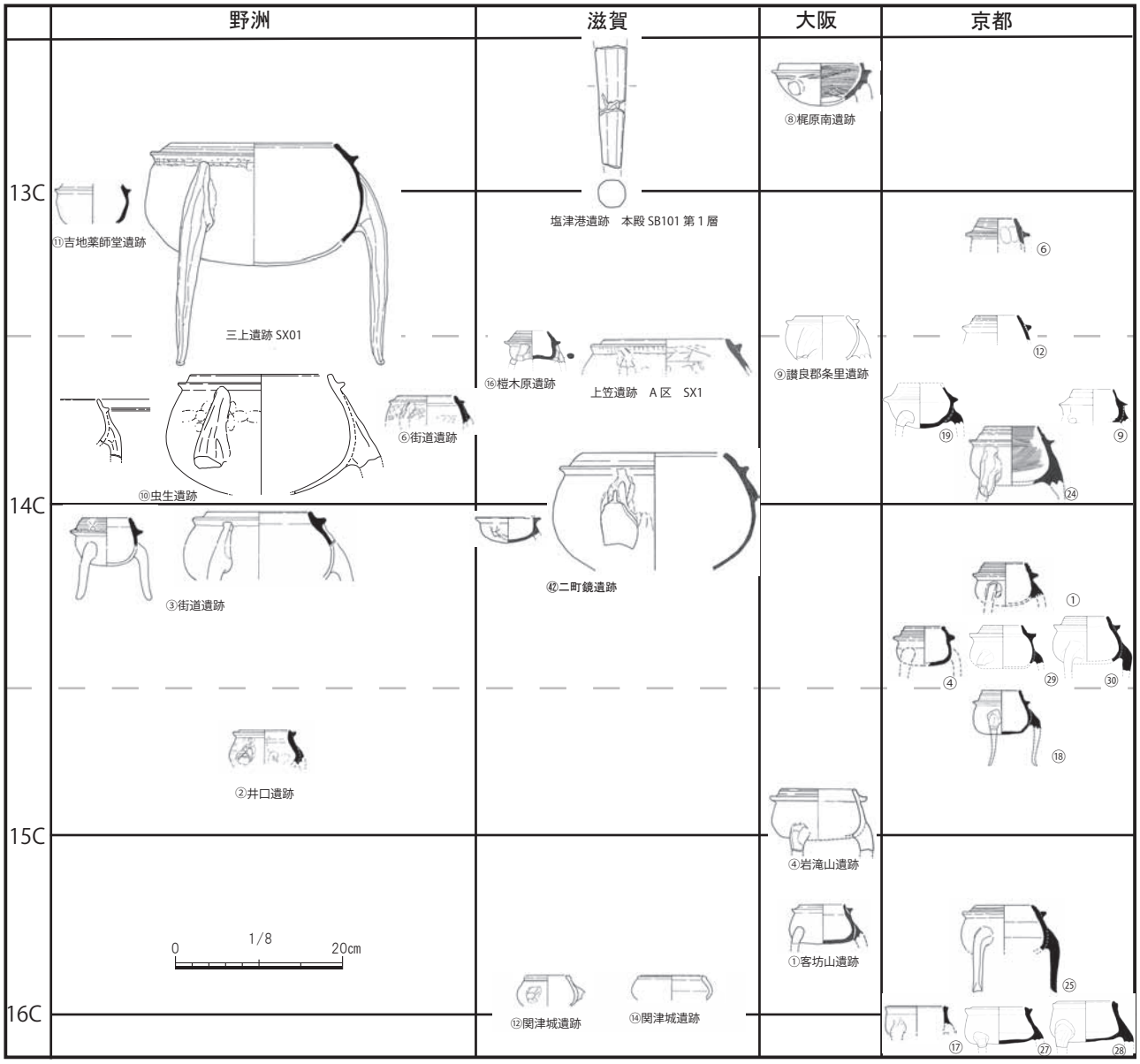

図 11　小型三足釜・三足釜変遷図

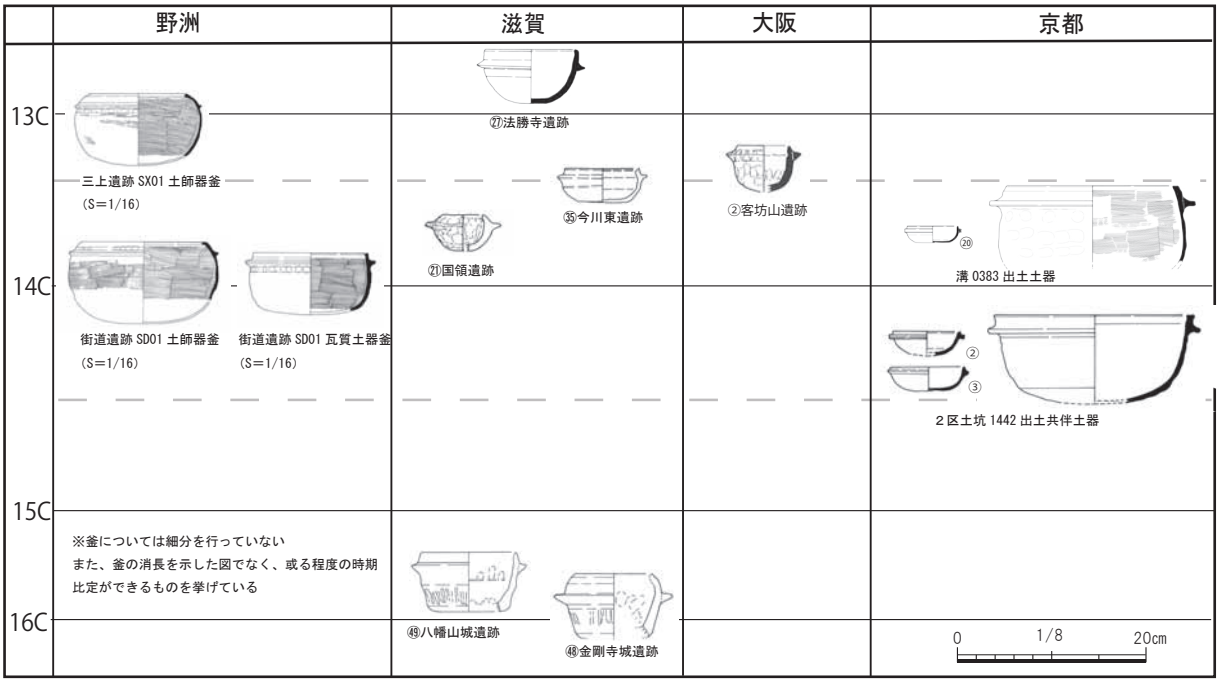

図 12　小型釜（脚部なし）

脚部を持たない釜は土師器釜と瓦質土器釜の小型品と思われる。例を挙げると 12 世紀以前の法勝寺出土のものは比較的体部が丸みをもつため土師器釜等の影響を受け、京都の平安京左京二条四坊十町２区土坑 1442 出土の小型釜は瓦質土器釜と形状が類似していることから（②・③）、瓦質土器釜の小型品と判断される。

脚部を持たないものについては 14 世紀前後に比較的多く確認できるが 11 世紀末～ 15・16 世紀まで確認できる。また 15 世紀代には体部下半にヘラミガキを施すものも確認できるようになる。

まとめ

以上本稿では限定的な資料に基づくものではあるが、野洲市小型釜出土事例や、また周辺での小型釜出土事例から若干の検討を行った。その結果次のことが判明した。

①小型三足釜の出土する年代としては 13 ～ 14 世紀がおおい。一方 15 ～ 16 世紀にも確認できる。三足釜が確認できなくなる後も小型品は製作されている。

②野洲市出土小型釜は琵琶湖や川、もしくは街道近くの遺跡で出土する傾向にある。

③小型釜に関して、滋賀県内では野洲郡や栗太郡など琵琶湖南部で多く出土する。

④小型三足釜に関して小篠原遺跡の事例などから野洲市で生産されていた可能性がある。また栗太郡など周辺にも供給していたことも考えうる。

④京都は 13 ～ 15 世紀において小型三足釜に関して口縁部外面に段をもつものが大多数であり、同時期の野洲市出土のものと対照的である。また、坂本周辺出土のものは段をもつ三足釜がほとんどで坂本周辺は京都の影響を受けていることを再確認できる。

⑤小型三足釜の形状の変遷としては時代を経るについて鍔部が上方に上がり、口縁部が短くなるのと同時に脚部と鍔部の間隔が開く傾向がある。また鍔部の張り出し高さも 15 世紀頃を境に低くなる。傾きも内傾から外傾し口径も大きくなる。

⑥小型釜の用途に関して断言はできないが野洲市出土のものに使用痕が確認できる事例がある。一方使用痕が確認できる事例でも複数回の使用は想定しづらい。

また、資料を集成する中で、12 ～ 14 世紀における近江の土器編年について、他地域との比較か

ら黒色土器椀や瓦質土器釜、瓦質土器鍋の出現年代が若干遡る可能性があることが判明した。

なお、本稿では各遺跡の性格から見た分布、分布からみた小型釜の流通、形状の変化の背景など十分な検討が行えていない。資料としても集成できた事例が少なく、より多くの資料を集成した上での比較検討を行う必要がある。また実見できていない資料がほとんどであり、より詳細な使用痕に関わる考察などは今後の課題としておきたい。

（渡邉）

謝辞

本稿を書くきっかけとなったのは令和６年 12 月に第７回近江土器研究会で虫生遺跡出土の小型三足釜を実見していただき助言いただいたためである。その際にご助言いただいた方に改めて御礼申し上あげます。

佐藤亜聖　藤本史子　岡智康　川嶋泰輔　近江の土器研究会の方々　野洲市教育委員会の方々

［注］

(1) 滋賀県野洲市教育委員会　2011『平成 22 年度野洲市内遺跡発掘調査年報』

(2) 定形硯も出土しているが混入か。

(3) 三足釜はやや胎土が軟質焼成であること、器壁が総じて厚手なこと、また胎土から在地生産が森氏や奥井氏により想定されている [森 1986、奥井 2004]。

(4) 焼粘土塊や鉄滓も出土していることから、鍛冶工房も同時に操業されていた可能性がある。

(5) 奥井氏が 13 世紀中～ 13 世紀後半の基準資料として挙げている三上遺跡 SX01 の出土遺物としては [奥井 2004]、甕（常滑・４型式）、片口鉢Ⅰ類（常滑・３～４型式）、東播系須恵器鉢（Ⅲ－１類）、同安窯系青磁皿（D 期）があることからも SX01 出土遺物は 12 世紀第四半期～ 13 世紀前半の資料と捉えられる。このことから 2000 年代以降の資料の増加や他地域の土器の研究の進展に伴い、森氏の土器編年設定以降、土器の年代観について若干の齟齬が発生している。なお、三上遺跡 SX01 から出土している黒色土器椀の口縁端部内面は沈線を持つものがほとんどで、口縁端部外面は横方向のミガキを施している。

一方で三上遺跡 SX01 からは瓦質土器鍋も出土している。本稿で時期推定の参考資料として取り上げた鋤柄氏による近江における煮炊具の消長表では受け口状の口縁部を持つ瓦質土器鍋は 13 世紀末から出土するとされている [鋤柄 1997]。このことから瓦質土器鍋に関しても年代観の齟齬が生じている。また今回小型釜出土遺跡・遺構として取り上げた虫生遺跡 SD10 からは瓦質土器釜が出土している。瓦質土器釜は 13 世紀中には確認できるという意見とともに [奥井 2007]、13 世紀末～ 14 世紀初頭に京都から流入したという意見がある [三尾 2012]。SD10 は 13 世紀中～後半の片口鉢Ⅰ類（常滑・５～ 6a 型式）、京都系土師器皿（７A 段階）等が出土しており、13 世紀中～後半の遺構と考えられることから黒色土器椀の年代観が若干変化するのと同時に瓦質土器釜についても年代観が変化する可能性がある。なお、瓦質土器三足釜についても近江では 13 世紀初頭からみられるとされているが [奥井 2007]、塩津港遺跡の本殿 SB101 第１層（12 世紀第２四半期～ 12 世紀第４四半期）から瓦質土器三足釜の脚部が出土していることから [滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2019]、北山城と同様に 12 世紀後半に近江でも確認できる可能性がある。なお森氏は 12 世紀後半から確認できるとしている [森 1986]。このように近江の中世土器の出現時期や年代観に関しては各研究者によりまちまちである。近江における中世前半期の土器編年については別稿を記したい。

(6) 畑中氏も黒色土器椀の編年をする上で、時代を経るにつれ口縁端部内面の沈線をもつ資料の比率が下がる事を指摘している [畑中 1997]。

(7) 森氏は黒色土器椀の終焉を 14 世紀中ごろとしており [森 1986]、木戸氏は 14 世紀後半～ 15 世紀に至らないまでを想定している [木戸 1989]。

(8) 平安京左京七条二坊五町 井戸 130（⑥）出土小型三足釜も同様に鍔部にキザミを施している。

(9) 上面の遺構から出土した黒色土器椀は SD10 出土のものが口縁端部内面に沈線を持つのに対し、口縁端部内面に沈線を持たないものがほとんどである。

(10) なお、溝からは小型黒色土器椀が出土している。小型黒色土器椀について鳥羽氏が指摘するように [鳥羽 2007]、仏具の六器として使用している可能性があり、また出土したものは口縁部に一部打ち欠けがみられるが現状どの段階で欠損が生じたか不明である。なお、SD10 出土遺物には密教関連のものは確認できていない。また金属製品の六器埦は野洲市内では令和元年に調査を行った小篠原遺跡から出土している。

(11) 中主町教育委員会　1989『昭和 62 年度　中主町内遺跡発掘調査年報』

(12) 滋賀県野洲郡中主町教育委員会 1990『吉地薬師堂遺跡、光相寺遺跡発掘調査報告書』
(13) 脚部について、野洲出土の三足釜は足の先端部が屈曲する例が多い。小型釜に関しても同様に屈曲する可能性があるが脚部の先端の形状までわかる資料は出土していない。
(14) 年代の根拠としては　報告書の記載年代と合わせ共伴ないし同一の遺構から出土している土器の年代観を参考にした。また土器の年代観としては焙烙や瓦質土器釜・鍋などの煮炊具は三尾次郎氏や森隆氏、常滑焼等は中野晴久氏、信楽焼については畑中英二氏、東播系鉢については佐藤亜聖氏、土師器皿については平尾政幸氏、近江系黒色土器については森氏や畑中氏の論考を参考にした。
(15) 野洲市文化財保護課執務室内で掲示してある森氏の編年表による。
(16) 膳所城においても 16 世紀末以降の小型釜を確認しているが、鍔部が体部下半にあり、茶釜等の小型品と考えられることから今回は除外している。
(17) 京都出土小型釜は数が膨大なため一部の集成のみにとどまっている。
(18) 14 世紀以降青磁の香炉など三足の形状をもつ土器に影響を受けた可能性もある。
(19) 藤本氏のご教示による。

【参考文献】

宇野隆夫　1997「中世食器様式が意味するもの」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 71 集　国立歴史民俗博物館
鋤柄俊夫　1995「瓦質土器」『概説　中世の土師器・陶磁器』真陽社
鋤柄俊夫　1997「中世食器の地域性　畿内周辺－近江－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 71 集　国立歴史民俗博物館
奥井智子　2004「近江における中世土器研究」『中近世土器の基礎研究』XVIII　日本中世土器研究会
奥井智子　2007「畿内における土製煮沸具の様相」『中近世土器の基礎研究』21　日本中世土器研究会
松島真弓・木立雅朗 2016「中世の土鍋による炊飯方法：草戸千間町遺跡の土器使用痕分析」『月刊考古学ジャーナル』4 No.682　ニューサイエンス社
佐藤亜聖　2022「第 4 章　東播系須恵器」『新版　概説中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会
佐藤亜聖　2024「土器から見た中世都市奈良」『第 42 回　中世土器研究会　都市の流通－中世前期の土器・陶磁器から―』中世土器研究会
小森俊寛　2005『京から出土する土器の編年的研究－日本律令的土器様式の成立と展開、７～ 19 世紀－』京都編集工房 ,
佐野静代　1997「古代末期～中世の開発画期と平野部荘園の灌漑水利」『歴史地理学』39 巻 2 号
中野晴久　2022「第 1 節　東海諸窯」『新版　概説中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会
中野晴久　2013『中世常滑窯の研究』愛知学院大学大学院文学研究科歴史学専攻
平尾政幸　2019「土師器再考」『洛史』第 12 号　（公財）京都市埋蔵文化財研究所
三尾次郎　2012「近江湖東地域の中世後期における土製煮沸具の組成変化―焙烙・瓦質製品を中心として―」『淡海文化財論叢』第四輯　淡海文化財論叢刊行会
畑中英二　2007『続信楽焼の考古学的研究』サンライズ出版
畑中英二　1997「第 4 節　近江型黒色土器編年の作業前提」『三堂遺跡－野洲町冨波甲所在－』滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会
木戸雅寿　1989「近江における 15 ～ 16 世紀の土器について」『中近世土器の基礎研究』Ⅴ　日本中世土器研究会
中井淳史・佐藤亜聖・新田和央 2022「第 7 章　近畿」『新版　概説中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会
森　　隆　1986「滋賀県における古代末・中世土器」『中近世土器の基礎研究』Ⅱ　日本中世土器研究会
藤本史子　2023「中世土器の生産と流通」『ヒストリア』300 号　大阪歴史学会
鳥羽正剛　2007「瓦器小埦にみる特異な使用痕跡に関する考察（その２）」『中近世土器の基礎研究』21　日本中世土器研究会

滋賀県内出土小型釜一覧①

番号	市町村名	遺跡名	遺跡の性格	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代	口径	段	器高	焼成	使用痕	調査地出土搬入土器	備考	報文
1	野洲市	小篠原	集落	野洲市小篠原字沢ノ口 1531 番	SX01	有	円面硯、土師器釜	13 世紀？	6.3	なし	-	やや不良	なし		″内外面ナデ 大量の土師器三足釜脚部と共に窯体片 SX01 を切る SK04 からは黒色土器椀や壺（信楽）が出土しており、13 世紀～ 15 世紀前半。″	滋賀県野洲市教育委員会 2022「第 9 章小篠原遺跡」『野洲市埋蔵文化財調査概要報告書』
2	野洲市	井口	集落	野洲市井口字東内畑 573 番１外	包含層	有	-	包含層は 14 世紀～ 15 世紀	5.8	なし	-	やや不良	外面下部煤		″内面ナデ 包含層からは焙烙、甕（信楽）。14 世紀後半～ 15 世紀。遺構からも土師器皿 Sh が出土すること等からも 13 世紀代までは遡らないと考えられる。″	″滋賀県野洲市教育委員会 2011「34. 井口遺跡」『平成 22 年度野洲市内遺跡発掘調査年報』報文では 15 世紀～ 16 世紀前半とする″
3	野洲市	街道	集落	野洲町大字大篠原出口 1740-3	SD01	？	青磁、土師器釜、瓦質土器釜、瓦質土器三足釜、土師器皿、山茶碗、片口鉢（常滑･6a 型式）、甕（常滑･5 ～ 6 a 型式）	13 世紀後半～ 14 世紀初頭	5.6	有	-	良	？	山茶碗、片口鉢（常滑）、甕（常滑･備前）、瓦器椀（大和型）	″内面ナデ 森編年Ⅲ－３提示資料、森氏の編年では 14 世紀初頭 黒色土器椀は内面沈線なし″	野洲町教委・野洲市埋蔵文化財調査会 1988『街道遺跡発掘調査報告－１』
4	野洲市	街道	集落	野洲市大篠原字出口 1739 番地６外	包含層	？	-	-	5.9	なし	-	不良	なし	石鍋、山茶碗（外面に墨書）	″内面ナデ 遺跡からは山茶碗、石鍋等″	滋賀県野洲市教育委員会 2008「第４章　街道遺跡 27 次」『平成 18 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書２』
5	野洲市	街道	集落	野洲市大篠原字出口 1739 番地６外	SD404	？	土師器皿、黒色土器椀	13 世紀	5.9	なし	-	不良	なし	石鍋、山茶碗（外面に墨書）	″内面ヨコハケ 遺跡からは山茶碗、石鍋等″	滋賀県野洲市教育委員会 2008「第４章　街道遺跡 27 次」『平成 18 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書２』
6	野洲市	街道	集落	野洲市大篠原字赤根田 1312 番地	SX01	有	土師器皿、黒色土器椀、瓦質土器釜、瓦質土器三足釜、甕（常滑）	13 世紀中～ 14 世紀初頭	6.6	なし	-	やや不良	あり		″内面ナデ 遺跡からは山茶碗、石鍋等″	滋賀県野洲市教育委員会 2011「29. 街道遺跡」『平成 22 年度野洲市内遺跡発掘調査年報』
7	野洲市	街道	集落	野洲市大篠原字赤根田 1312 番地	包含層	？	-	-	6	なし	-	やや不良	あり		″内面ナデ 遺跡からは山茶碗、石鍋等″	滋賀県野洲市教育委員会 2011「29. 街道遺跡」『平成 22 年度野洲市内遺跡発掘調査年報』
8	野洲市	上永原	集落、城館	野洲市上屋字與六郎 1326 番地１外	SD01	有	土師器皿、黒色土器椀･小埦、焙烙、管状土錘、東播系須恵器鉢（Ⅲ－４類）、土師器壺、瓦質土器火鉢、土師器釜、緑釉陶器	13 世紀～ 16 世紀	6	なし	-	やや不良	外面煤	東播系須恵器鉢	″外面ナデ、内面ヨコハケ 調査地はⅠ期（平安時代末期～鎌倉時代）、Ⅱ期は室町時代後期～戦国時代のものがある″	滋賀県野洲市教育委員会 2011「第３章上永原遺跡」『平成 22 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書』
9	野洲市	虫生	集落	野洲市虫生字里ノ内 214 番	SD10	有	片口鉢（常滑・５～ 6a 型式）、瓦質土器三足釜、土師器台付皿、土師器皿（7A）、土師器釜、黒色土器椀、小型黒色土器椀、木製品（組物片、曲物の底板、折敷の底板）	13 世紀中～ 13 世紀後半	-	なし	-	やや不良	外面下部煤	片口鉢（常滑）、京都系土師器皿？（７A 段階）	内面ヨコナデ、口縁端部外面ヨコナデ	滋賀県野洲市教育委員会 2025「10 虫生遺跡」『野洲市内遺跡発掘調査年報』
10	野洲市	虫生	集落	野洲市虫生字里ノ内 214 番	包含層	有	-	-	8.2	なし	-	やや不良	外面下部煤	片口鉢（常滑）、京都系土師器皿？（７A 段階）	内面ヨコナデ、口縁端部外面ヨコナデ	滋賀県野洲市教育委員会 2025「10 虫生遺跡」『野洲市内遺跡発掘調査年報』
11	野洲市	吉地薬師堂	集落	中主町吉地字溝ノ井 278 ー８、278 ー９	SX11103	？	土師器皿、黒色土器椀、東播系須恵器鉢（Ⅲ－１類）	12 世紀後半～ 13 世紀前半？	-	なし？	ー	不良	外面下部煤	東播系須恵器鉢、片口鉢（常滑）、甕（常滑）	″内面ナデ 遺跡からは山茶碗（東濃型）、石鍋、奈良火鉢、直縁大皿（至徳４年の墨書）、青磁など出土・″	中主町教育委員会 1990「第４章　吉地薬師堂遺跡第１１次発掘調査概要」『昭和 63 年度中主町内遺跡発掘調査年報』
12	大津市	関津城	城館	大津市関津三丁目	2 区包含層	有	-	15 ～ 16 世紀代	-	なし	-	やや不良	？	白磁皿、青磁碗、染付（肥前）、施釉陶器（瀬戸美濃）、など	内面？	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2016『国道 422　号補助道路整備　工事に伴う発掘調査報告書　関津城遺跡』
13	大津市	関津城	城館	大津市関津三丁目	2 区井戸 S9	？	擂鉢（信楽）、甕（信楽・丹波もしくは備前）水指（信楽）鉢・灰釉皿（瀬戸美濃）、染付、白磁	15 世紀後半～ 16 世紀後半	5.4	なし	-	やや不良	？	染付（肥前）、施釉陶器（瀬戸美濃）、青花など	″内面？ 報告書では 16C ？と記載″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2016『国道 422　号補助道路整備　工事に伴う発掘調査報告書　関津城遺跡』

滋賀県内出土小型釜一覧②

番号	市町村名	遺跡名	遺跡の性格	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代	口径	段	器高	焼成	使用痕	調査地出土搬入土器	備考	報文
14	大津市	関津城	城館	大津市関津三丁目	2区包含層	?	-	15～16世紀代	7.2	なし	-	やや不良	?	染付（肥前）、施釉陶器（瀬戸美濃）、など	″内面？ 報告書では16C？と記載″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2016『国道422　号補助道路整備　工事に伴う発掘調査報告書　関津城遺跡』
15	草津市	芦浦	集落	草津市芦浦町	地区Ⅴ西側残土	有	-	-	4.9	有	-	?	?	甕（常滑）、四耳壺（瀬戸美濃）など	報告書では13世紀と想定	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1998『芦浦遺跡　滋賀県草津市芦浦町所在』
16	大津市	榿木原	窯跡	大津市南滋賀一丁目	SK107	有	土師器、瓦質土器鍋	13世紀中～後半	3.8	あり	-	やや不良	?	京都系土師器皿？	″口縁端部内外面ヨコナデ、内面底部は不定方向のナデ 口縁端部外面　３条のヘラ研磨″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1981『榿木原遺跡発掘調査報告Ⅲ－南滋賀廃寺瓦窯－』
17	大津市	関津	屋敷	大津市関津三丁目	K区S66（旧河道）	?	縄文土器、弥生土器、須恵器、黒色土器椀、山茶碗、擂鉢（信楽）、土師器製塩土器、瓦	縄文～16世紀後葉	-	なし	-	やや不良	?	山茶碗、染付（肥前）、丸碗（瀬戸美濃）など	内面？	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2015『国道422　号道路改築事業に伴う発掘調査報告書　関津遺跡２』
18	長浜市	塩津港	神社	長浜市西浅井町塩津浜	本殿SB101第１層	?	″剣頭文軒平瓦、瓦質土器三足釜、甕（常滑・２型式）、土師器皿、瓦器椀・皿、白磁、鉢（常滑）、灰釉陶器、山茶碗、盤（磁灶窯）″	第１層：12世紀第２四半期～12世紀第４四半期	6.8	なし	-	?	?	灰釉陶器、三筋壺・甕（常滑）、京都系土師器皿、山茶碗など	″内面？ 起請文木簡″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2019『塩津港遺跡１長浜市西浅町塩津浜』
19	守山市	山賀	集落	守山市山賀町杉江町	第Ⅱ調査区第１遺構面土壇状遺構	有	焙烙、黒色土器、青磁碗、土師器釜、東播系須恵器鉢（Ⅲ－３類）、灰釉陶器、黒色土器、瓦質土器鍋、甕（常滑・７型式）、鉢（信楽）、白磁など	古代～中世	5.1	有	-	良？	なし	東播系須恵器鉢、卸皿（瀬戸美濃）など	″内面ユビオサエ SB2103に切られる 報告書では12世紀中ごろと記載″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2001『山賀遺跡　守山市山賀町』
20	守山市	山賀	集落	守山市山賀町杉江町	第Ⅱ調査区第２遺構面第２包含層	有	-	-	5.8	有	-	やや不良	二次焼成うける	東播系須恵器鉢、卸皿（瀬戸美濃）など	″内面ユビオサエ 報告書では14世紀前半と記載″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2001『山賀遺跡　守山市山賀町』
21	彦根市	国領	集落	彦根市田附町	２区溝201	無？	土師器皿、黒色土器椀、土錘	13世紀後半	4.4	なし	3.8	?	?	卸皿（瀬戸美濃）、山茶碗、壺（常滑）、灰釉陶器、鉢（丹波）など	″内面と口縁部外面はオサエ、口縁端部内外面はナデ、体部外面から底部外面はユビオサエ″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2006『国領遺跡　彦根市田附町』
22	長浜市	堀部西	集落	長浜市堀部町	A地区包含層	?	-	-	10.7	なし	-	?	?	青磁碗、山茶碗、片口鉢（常滑）、滑石製石鍋、	″内面？ 包含層は13～15世紀″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1992『堀部西・堀部遺跡－長浜市掘部町所在－』
23	湖南市	夏見城	集落、城館	湖南市夏見	T1　第２遺構面落ち込み－暗灰褐色粘質土層（16層）	?	土師器皿、土師器台付皿、焙烙、瓦器椀、黒色土器椀、山茶碗、土師器釜、瓦質土器釜、瓦質土器三足釜、瓦質土器火鉢、白磁、青磁、甕（常滑）、瓦、鉢（信楽）、砥石等	13世紀後半～14世紀前半	9.8	なし	-	やや不良	?	瓦器椀（大和型）、山茶碗、甕（常滑）など	″内面ヨコナデ、外面ヨコナデ・ユビオサエ432″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会2011『夏見城遺跡　湖南市夏見』
24	東近江市	横田	集落	神崎郡五個荘町大字竜田外	A地区SK22	?	-	-	9	有	-	?	?	-	-	五個荘町教育委員会1988『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅤ－５』
25	米原市	法勝寺	寺院	坂田郡近江町	MS01	なし	土師器皿、土師器小型鉢	″４C～5A （11末～12前半）″	7.8	なし	3.2	やや不良	なし	山茶碗	″土師器がほぼすべて、陶器等の混在はなし 完形品、もしくはそれに近いものが多い 報告書では第Ⅹ期と記載″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1990『法勝寺遺跡－坂田群近江町－』
26	米原市	法勝寺	寺院	坂田郡近江町	MS01	なし	土師器皿、土師器小型鉢	″４C～5A （11末～12前半）″	9.4	なし	5.8	?	?	山茶碗	″土師器がほぼすべて、陶器等の混在はなし 完形品、もしくはそれに近いものが多い″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1990『法勝寺遺跡－坂田群近江町－』
27	米原市	法勝寺	寺院	坂田郡近江町	MS01	なし	土師器皿、土師器小型鉢	″４C～5A （11末～12前半）″	9.4	なし	5.8	?	?	山茶碗	″土師器がほぼすべて、陶器等の混在はなし 完形品、もしくはそれに近いものが多い″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1990『法勝寺遺跡－坂田群近江町－』

滋賀県内出土小型釜一覧③

番号	市町村名	遺跡名	遺跡の性格	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代	口径	段	器高	焼成	使用痕	調査地出土搬入土器	備考	報文
28	米原市	法勝寺	寺院	坂田郡近江町	MS01	なし	土師器皿、土師器小型鉢	″４C～5A（11 末～12 前半）″	10	なし	6	やや不良	あり？	山茶碗	″土師器がほぼすべて、陶器等の混在はなし 完形品、もしくはそれに近いものが多い″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1990『法勝寺遺跡－坂田群近江町一』
29	米原市	法勝寺	寺院	坂田郡近江町	MS01	なし	土師器皿、土師器小型鉢	″４C～5A（11 末～12 前半）″	9.2	なし	6	やや不良	?	山茶碗	″土師器がほぼすべて、陶器等の混在はなし 完形品、もしくはそれに近いものが多い″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1990『法勝寺遺跡－坂田群近江町一』
30	米原市	法勝寺	寺院	坂田郡近江町	MS01	なし	土師器皿、土師器小型鉢	″４C～5A（11 末～12 前半）″	9.2	なし	6.2	やや不良	なし	山茶碗	″土師器がほぼすべて、陶器等の混在はなし 完形品、もしくはそれに近いものが多い″	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1990『法勝寺遺跡－坂田群近江町一』
31	多賀町	敏満寺	集落、寺院	犬上郡多賀町敏満寺	19 区　A・19 遺構検出面	?	-	-	7.9	なし	-	やや不良	?	甕（信楽・常滑）、卸皿（瀬戸美濃）、鉢（信楽・常滑・瀬戸美濃）など	検出面からは白磁小皿等が出土	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2004『敏満寺遺跡　滋賀県犬上群多賀町敏満寺』
32	大津市	関津	集落、官衙	大津市関津一丁目	B 区遺構面直上	?	-	-	-	有	-	やや不良	?	平碗（瀬戸美濃）、東播系須恵器鉢、鉢（常滑）、山茶碗など		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2008『国道 422　号道路改築事業に伴う発掘調査報告書　関津遺跡　大津市関津一丁目』
33	大津市	関津	集落、官衙	大津市関津一丁目	D 区遺物包含層	?	-	-	6.4	あり？	-	やや不良	?	平碗（瀬戸美濃）、東播系須恵器鉢、鉢（常滑）、山茶碗など	報告書では出土した瓦質土器類について 12 世紀前半から 13 世紀後半頃に比定できるとする	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2008『国道 422　号道路改築事業に伴う発掘調査報告書　関津遺跡　大津市関津一丁目』
34	大津市	関津	集落、官衙	大津市関津一丁目	D 区遺物包含層	?	-	-	5.2	なし	-	やや不良	?	平碗（瀬戸美濃）、東播系須恵器鉢、鉢（常滑）、山茶碗など	報告書では出土した瓦質土器類について 12 世紀前半から 13 世紀後半頃に比定できるとする	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2008『国道 422　号道路改築事業に伴う発掘調査報告書　関津遺跡　大津市関津一丁目』
35	長浜市	今川東	集落	長浜市今川町	T2 落ち込み 3	なし	土師器皿、瓦器皿	13 世紀代	6	なし	2.5	良	外面煤		調整はナデとユビオサエ	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1995『今川東遺跡－長浜市今川町所在一』
36	高島市	酒波寺	寺院	高島市今津町	SX21 上面	?	土師器皿、土師器釜、卸皿（瀬戸美濃）、白磁碗、東播系須恵器鉢など	11 世紀後半～15 世紀初頭	6.3	あり	-	良	?	山茶碗、縁折大皿（瀬戸美濃）、鉢（常滑）、甕（常滑）、東播系須恵器鉢、壺（越前）	報告書では 14 世紀と記載	滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2008『酒波寺遺跡　高島市今津町酒波』
37	守山市	横江	集落	守山市横江町横畑	SD04 下層	有	土師器皿、黒色土器椀、土師器釜、瓦質土器釜、瓦質土器鍋、焙烙、瓦質土器火舎、東播系須恵器鉢、灰釉陶器、鉢（常滑）、白磁、青磁、滑石製石鍋、甕（常滑・渥美）など	13 世紀～14 世紀前半	9.4	なし	—	やや不良	?	東播系須恵器鉢、灰釉陶器、鉢（常滑）、白磁、滑石製石鍋、甕（常滑）など		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1986『横江遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
38	守山市	横江	集落	守山市横江町横畑	SD16	有	土師器皿、黒色土器椀、瓦器椀、東播系須恵器鉢（Ⅲ－１類？）、青磁、砥石、瓦質土器三足釜	１２世紀後半～13 世紀代	9	なし	-	やや不良	?	東播系須恵器鉢、灰釉陶器、鉢（常滑）、滑石製石鍋、甕（常滑）など		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1986『横江遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
39	大津市	坂本里坊	集落、寺院	大津市坂本四丁目字眞葛原	屋敷地	有？	土師器皿、須恵器、灰釉陶器、瓦質土器火鉢・釜、青磁、白磁	15 世紀～16 世紀？	5.8	有	-	良	?	碗（瀬戸美濃）、京都系土師器皿	″屋敷地出土とし、出土遺構・層位は明記されず脚部も出土している″	大津市教育委員会 2003『大津市埋蔵文化財調査報告（34）坂本遺跡群発掘調査報告書』
40	大津市	坂本城	城館	大津市坂本三丁目	?	?	?	?	8.2	有	-	?	?	施釉陶器（瀬戸美濃）、甕（備前）	″口縁部外面に一条の沈線 体部外面ヘラケズリ？　平底 47″	大津市教育委員会 2008『大津市埋蔵文化財調査報告（43）坂本城跡発掘調査報告書』
41	大津市	坂本城	城館	大津市坂本三丁目	?	?	?	?	7.4	有	-	やや不良	?	施釉陶器（瀬戸美濃）、甕（備前）	″口縁部外面に２条の沈線 49″	大津市教育委員会 2008『大津市埋蔵文化財調査報告（43）坂本城跡発掘調査報告書』

滋賀県内出土小型釜一覧④

番号	市町村名	遺跡名	遺跡の性格	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代	口径	段	器高	焼成	使用痕	調査地出土搬入土器	備考	報文
42	守山市	二町鏡	集落	守山市二町町字堂ノ内	T１　SD01 上層	有	土師器皿、黒色土器椀、瓦質土器三足釜、壺	13 世紀後半～ 14 世紀前半	-	?	-	?	有	鉢（常滑）、碗（瀬戸美濃）、京都系土師器皿など	″報告書内では 2002 年時点で横江遺跡から２点、二町鏡遺跡(11次)で１点出土と記載 34″	守山市教育委員会 2002『守山市文化財調査報告書平成 12・13 年度国庫補助対象遺跡発掘調査報告』
43	草津市	上笠	集落	草津市上笠町	A 区　SX1	?	瓦器椀、瓦質土器三足釜、滑石製石鍋、黒色土器椀、瓦質土器鍋	13 世紀中～ 13 世紀末	6	なし	-	良？	?	滑石製石鍋、瓦器椀？、須恵器鉢（篠？）	″体部外面ユビオサエ、それ以外はヨコナデ 228″	草津市教育委員会 1994『草津市文化財調査報告 22　下ノ笠堂跡・馬場・上笠遺跡発掘調査報告書』
44	東近江市	上山神社	集落	東近江市山路町	Pit -722	有	-	12 ～ 13 世紀？	6	なし	-	良？	?	青磁、甕（常滑）	″SP720 に切られる 908″	東近江市教育委員会 2020『東近江市埋蔵文化財調査報告書 第 39 集　上山神社遺跡（第２次）』
45	甲賀市	小川城	城館	甲賀郡信楽町小川	″第８曲輪跡（K－８）T-23″	?	-	-	7.2	なし	-	良？	?	水滴（瀬戸美濃）	″内外面ヨコナデおよびユビオサエ。内面に粘土巻き上げ痕を残す。報告書では前回にも出土をみたとする″	信楽町教育委員会 1979『信楽町文化財調査報告書第２集　小川城跡発掘調査報告書Ⅱ』
46	大津市	関津	集落	大津市関津五丁目	第７調査区包含層	?	-	-	6	なし	-	?	なし	東播系須恵器鉢、瓦器椀、瓦質土器釜（大和型）など	″関津遺跡からは大和型瓦器椀や大和型の土釜、樺葉型瓦器椀も出土する 194″	大津市教育委員会 2020『大津市埋蔵文化財調査報告（135）関津遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
47	大津市	坂本里坊	集落、寺院	大津市坂本四丁目	第２遺構面 SX5	?	土師器、焙烙、擂鉢（信楽）、壺（備前）、瓦質土器釜、瓦質土器風炉、青磁	15 ～ 16 世紀	7.9	有	-	やや不良？	?	壺（備前）、など	58	大津市教育委員会 2015『大津市埋蔵文化財調査報告（91）埋蔵文化財調査集報Ⅵ－国庫事業（市内遺跡発掘調査等）発掘調査報告－』
48	近江八幡市	金剛寺城	城館、寺院	金剛寺町	SD8（堀？）	?	土師器皿、擂鉢（信楽）、天目茶碗（瀬戸美濃）、瓦質土器火鉢、鉢（備前）	15 世紀中～ 16 世紀前半	8.1	なし	-	?	?	施釉陶器など	″体部下半は縦方向のヘラミガキ、内面はユビオサエ底は平底 報告書では 16 世紀前半と記載″	近江八幡市・近江八幡市教育委員会 2013『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書 47』
49	近江八幡市	八幡山城	集落	多賀町 665 番	２調査区東壁の暗褐色土に設けたサブトレンチ	なし	―	15 ～ 16 世紀	9.8	-	-	やや不良	?	-	″底部はヘラケズリ、報告書では 15 世紀後半と記載 八幡山城 21 次調査″	近江八幡市・近江八幡市教育委員会 2011『近江八幡市埋蔵文化財発掘調査報告書 44』
50	日野町	松尾	集落	蒲生郡日野町大字松尾	１２－Ｃ区 SK-1 暗茶褐色土	?	土師器皿、瓦器椀・皿、土師器釜、瓦質土器三足釜	12 世紀末～ 13 世紀前半	-	-	-	やや不良	?	石鍋など	″摩滅する E2″	滋賀県日野町教育委員会 2004『日野町埋蔵文化財発掘調査報告書第 20 集　日野東部土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書』
51	日野町	松尾	集落	蒲生郡日野町大字松尾	１２－Ｃ区 SK-1 暗茶褐色土	?	土師器皿、瓦器椀・皿、土師器釜、瓦質土器三足釜	12 世紀末～ 13 世紀前半	6.4	なし	-	不良	?	石鍋など	″口縁部外面はヨコナデ E3″	滋賀県日野町教育委員会 2004『日野町埋蔵文化財発掘調査報告書第 20 集　日野東部土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書』
52	栗東市	林	集落	栗東市林 113	T-3、SR-23	なし	焙烙	?	8.7	なし	?	6.2	?	?	3	栗東市教育委員会・㈶栗東市文化体育振興事業団 2006『栗東市埋蔵文化財調査報告　2004 年度　年報』

京都出土小型釜一覧①

番号	市町村名	遺跡名	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代（報告書による）	口径	段	器高	焼成	使用痕	備考	報文
1	京都	平安京左京二条四坊十町	京都市中京区丸太町通柳馬場東入四丁目	２区土坑 2023	有	土師器皿、灰釉陶器	″Ⅶ期中段階～新段階（13 世紀末～ 14 世紀第２四半期）″	5.2	有	-	やや不良	?	″体部外面はナデ、体部内面・口縁部内外面はヨコナデ 424″	㈶京都市埋蔵文化財研究所　2001『平安京左京二条四坊十町　京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第 19 冊
2	京都	平安京左京二条四坊十町	京都市中京区丸太町通柳馬場東入四丁目	２区土坑 1442	なし？	土師器皿、土師器耳皿、瓦質土器鍋・釜、白磁碗、青磁碗、東播系須恵器鉢	″Ⅶ期新段階（14 世紀第２四半期）″	7.2	なし	-	?	?	″底部内外面はナデ、体部・口縁部内外はヨコナデ 498″	㈶京都市埋蔵文化財研究所　2001『平安京左京二条四坊十町 京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第 19 冊
3	京都	平安京左京二条四坊十町	京都市中京区丸太町通柳馬場東入四丁目	２区土坑 1442	なし？	土師器皿、土師器耳皿、瓦質土器鍋・釜、白磁碗、青磁碗、東播系須恵器鉢	″Ⅶ期新段階（14 世紀第２四半期）″	7.6	なし	-	やや不良	なし？	″底部内外面はナデ、体部・口縁部内外はヨコナデ 499″	㈶京都市埋蔵文化財研究所　2001『平安京左京二条四坊十町 京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第 19 冊
4	京都	平安京左京二条四坊十町	京都市中京区丸太町通柳馬場東入四丁目	２区土坑 1442	有	土師器皿、土師器耳皿、瓦質土器鍋・釜、白磁碗、青磁碗、東播系須恵器鉢	″Ⅶ期新段階（14 世紀第２四半期）″	4.8	有	-	?	?	″体部外面はナデ、体部内面・口縁部内外面はヨコナデ 505″	㈶京都市埋蔵文化財研究所　2001『平安京左京二条四坊十町 京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第 19 冊
5	京都	平安京左京二条四坊十町	京都市中京区丸太町通柳馬場東入四丁目	２区土坑 1371	有	?	?	2.8	有	-	?	?	″体部外面はナデ、体部内面・口縁部内外面はヨコナデ 1103″	㈶京都市埋蔵文化財研究所　2001『平安京左京二条四坊十町 京都市埋蔵文化財研究所調査報告』第 19 冊

京都出土小型釜一覧②

番号	市町村名	遺跡名	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代（報告書による）	口径	段	器高	焼成	使用痕	備考	報文
6	京都	平安京左京七条二坊五町	京都市下京区七条通猪熊東入八百屋町	井戸 130	?	瓦、土師器皿、瓦器、瓦質土器、青磁、白磁	″京都Ⅵ期（12 世紀第４四半期～13 世紀中）″	4.2	有	-	良	?	″内面ヨコナデ、ユビオサエ、外面ヨコナデ。鍔に暗文あり 257″	龍谷大学　2018『平安京左京七条二坊五町（東市）発掘調査報告書』
7	京都	京都大学構内	京都府京都市左京区吉田本町	SD3	有	土師器皿、須恵器、白磁、緑釉陶器、青磁	13 世紀中ごろ	7.7		-	?	?	Ⅱ 29	五十川伸矢 1981「第４章京都大学本部構内 AT27 区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報』　京都大学埋蔵文化財研究センター
8	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SK287	?	土師器皿、瓦器皿、土製品	13 世紀後半	6.4 ?	なし	-	良	?	″口縁部内外面ヨコナデ、内外面ナデ 643″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
9	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SK287	有	土師器皿、瓦器皿、土製品	13 世紀後半	4.8	なし	-	良	?	″口縁部内外面ヨコナデ、内外面ナデ 644″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
10	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SK678	?	瓦器椀、瓦質土器釜、土師器皿	13 世紀後半	4.0 ?	有	-	良	?	″口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面ミガキ、ナデ 771″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
11	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SK678	?	瓦器椀、瓦質土器釜、土師器皿	13 世紀後半	6.0 ?	有	-	良	?	″口縁部内外面ヨコナデ、内外面ナデ 772″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
12	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SK842	?	青白磁、土師器皿、土師器丸底小鉢	13 世紀中葉	5.2 ?	有	-	良	?	″口縁部内外面ヨコナデ、内外面ヨコナデ 832″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
13	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SK949	?	青磁	?	5.8 ?	なし	-	良	?	″口縁部内面ヨコナデ、内外面ナデ 919″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
14	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SP561	?	土師器皿、白磁皿	?	4.0 ?	なし	-	良	?	″口縁部内外面・内外面ヨコナデ 1002″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
15	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	SK43	有	土師器皿、陶器	?	5.6	有	-	良	?	″口縁部内外面ヨコナデ、内外面ナデ 1026″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
16	京都	平安京跡・東本願寺前古墓群	″京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町″	第２面	有	―	?	1.8	有	-	良	?	″口縁部内面ヨコナデ、内外面ナデ 1062″	(公) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2017『京都府遺跡調査報告集』第 169
17	京都	山科本願寺跡	京都市山科区西野山階町 30-1 他	土坑 2157	有	土師器皿、盞（丹波）、小坪（備前）、瓦質土器鉢、施釉陶器、青磁など	″京都Ⅸ期新段階～Ⅹ期古段階（15 世紀末～16 世紀第１四半期）″	7.5	なし	-	良	?	″報告書には香炉と記載 373″	京都市文化市民局 2012『京都市内遺跡発掘調査報告』
18	京都	平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡	京都市下京区童侍者町１	土坑 20	有	土師器皿、白磁	″京都Ⅷ期古段階（14 世第３四半期）″	4.4	有	-	良	?	434	財京都市埋蔵文化財研究所 2008『平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡　京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』20
19	京都	平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡	京都市南区東九条上殿田町	整地層１	有	″土師器、須恵器、瓦器、山茶碗、輸入陶磁器、焼締陶器″	″京都Ⅵ期新段階からⅦ期古段階（13 世紀中～13 世紀末）″	-	有	-	?	?	″口縁外部一筆書きのヘラ描き沈線 74″	財京都市埋蔵文化財研究所 2015『平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡　京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』
20	京都	″平安京左京二条二坊十・十五町（高陽院）跡″	京都市中京区油小路通丸太町下る大文字町	溝 0383	なし	瓦質土器釜、施釉陶器、青白磁、土師器皿、瓦質土器釜	13 世紀後半	5.4	なし	1.7	やや不良	?	″Ⅶ期 39″	株文化財サービス 2019『平安京左京二条二坊十・十五町（高陽院）跡発掘調査報告書』
21	京都	平安京左京三条三坊十五町	京都市中京区御池通東洞院西大仰保利町	池 403　ⅣＤ区第３層	?	土師器、瓦質土器釜、瓦質土器鍋、須恵器、輸入陶磁	13 世紀半ばから後半	7.4	なし	-	?	有？	″鎌倉時代の三条坊門押小路殿の庭園遺構である可能性 外面一部黒変 48″	古代文化調査会 2004『平安京左京三条三坊十五町－ニチコン株式会社本社新築に伴う調査－』
22	京都	平安京左京三条三坊十五町	京都市中京区御池通東洞院西大仰保利町	池 403　ⅣＥ区最下層	?	土師器、瓦質土器釜、瓦質土器鍋、須恵器、輸入陶磁	13 世紀半ばから後半	7.4	なし	-	?	有？	″鎌倉時代の三条坊門押小路殿の庭園遺構である可能性 外面一部黒変 49″	古代文化調査会 2004『平安京左京三条三坊十五町－ニチコン株式会社本社新築に伴う調査－』
23	京都	平安京左京三条三坊十五町	京都市中京区御池通東洞院西大仰保利町	池 306　下層	?	土師器、白色土器、須恵器、輸入陶磁、瓦質土器鍋など	″13 世紀半ばから後半″	5.7	なし	-	?	?	″鎌倉時代の三条坊門押小路殿の庭園遺構である可能性 69″	古代文化調査会 2004『平安京左京三条三坊十五町－ニチコン株式会社本社新築に伴う調査－』
24	京都	法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡	京都市東山区茶屋町	井戸４－250	有	土師器皿・鉢、白色土器、瓦器椀、東播系須恵器鉢、瓦質土器鍋・釜・鉢、火鉢、甕（常滑）、施釉陶器、青磁など	″Ⅶ期古段階（13 世紀第４四半期）″	6.2	有	-	?	?	″内面ハケ？ 302″	財京都市埋蔵文化財研究所 2009『京都国立博物館構内発掘調査報告書－法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡－京都市埋蔵文化財研究所調査報告書第 23 冊』
25	京都	平安京左京四条三坊四町・烏丸綾小路遺跡	京都市中京区小結棚町	土坑９	有	土師器皿、瓦質土器鍋、青磁	15 世紀中	6.7	有	10.2	良	?	″一括資料 211″	株ニッセン・株日開調査設計コンサルタント 2007『平安京左京四条三坊四町・烏丸綾小路遺跡』

京都出土小型釜一覧③

番号	市町村名	遺跡名	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代（報告書による）	口径	段	器高	焼成	使用痕	備考	報文
26	京都	平安京左京五条三坊七町跡・烏丸綾小路遺跡	京都府京都市下京区室町通仏光寺上る白楽天	土坑 5186	なし？	土師器皿、卸皿（瀬戸美濃）、瓦質土器火鉢	〃京都Ⅶ期 13 世紀後半～ 14 世紀前半〃	5.2	なし	—	やや不良	？	〃外面ナデ、ユビオサエ　内面ナデ 149〃	㈱イビソク 2017『イビソク京都市内遺跡発掘調査報告第 15 輯　平安京左京五条三坊七町跡・烏丸綾小路遺跡　』
27	京都	平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区新町通三条下る三条町	井戸 64	有	土師器皿、瓦器鐺付茶釜、奈良火鉢、青磁碗	京都Ⅸ期新段階からＸ期古段階の半ば（16 世紀前後）	6.2	なし	-	？	？	85	財京都市埋蔵文化財研究所　2013『平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡　京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2013-2』
28	京都	平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区新町通三条下る三条町	井戸 64	有	土師器皿、瓦器鐺付茶釜、奈良火鉢、青磁碗	京都Ⅸ期新段階からＸ期古段階の半ば（16 世紀前後）	6	なし	-	？	？	86	財京都市埋蔵文化財研究所　2013『平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡　京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2013-2』
29	京都	平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区新町通三条下る三条町	地下室 581 最上層	有	土師器皿、瓦器銚子、瓦器椀、瓦器手焙り、青白磁合子蓋、甕（常滑）	〃京都Ⅶ期新段階（14 世紀第２四半期）〃	4.9	有	-	？	？	310	財京都市埋蔵文化財研究所　2013『平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡　京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2013-2』
30	京都	平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡	京都市中京区新町通三条下る三条町	地下室 581 最上層	有	土師器皿、瓦器銚子、瓦器椀、瓦器手焙り、青白磁合子蓋、甕（常滑）	〃京都Ⅶ期新段階（14 世紀第２四半期）〃	5.2	有	-	？	？	〃橙色に変色 311〃	財京都市埋蔵文化財研究所　2013『平安京左京四条三坊八町跡・烏丸御池遺跡　京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2013-2』

大阪出土小型釜一覧

番号	市町村名	遺跡名	所在地	出土遺構	脚の有無	共伴遺物	遺構年代（報告書による）	口径	段	器高	焼成	使用痕	備考	報文
1	大阪	客坊山	東大阪市客坊町 1065	C２地区土坑６	有	土師器皿、瓦質土器釜、鉢	15 世紀	5.2	なし	-	良？	？	144	財東大阪市文化財協会 1998『客坊山遺跡群第２次発掘調査報告』
2	大阪	客坊山	東大阪市客坊町 1065	C２地区落ち込み４	なし？	瓦器椀・皿、土師器皿、東播系須恵器鉢	13 世紀？	5.3	なし	-	不良？	？	〃13 世紀の土坑 16 に切られる 211〃	財東大阪市文化財協会 1998『客坊山遺跡群第２次発掘調査報告』
3	大阪	岩滝山	東大阪市六万寺一丁目 780 番地	C2 地区井戸２	有	土師器皿、瓦質土器釜、甕（東播磨系）、擂鉢（備前）、火舎	14 世紀後半～ 15 世紀頃	8.3	有	-	良？	有？	〃井戸のどこかは明記されず 291〃	財東大阪市文化財協会 1999『岩滝山遺跡第５次発掘調査概要』
4	大阪	岩滝山	東大阪市六万寺一丁目 780 番地	C2 地区井戸２？	有	土師器皿、瓦質土器釜、甕（東播磨系）、擂鉢（備前）、火舎	14 世紀後半～ 15 世紀頃	8.5	有	-	良？	有？	〃写真図版 39 ではＣ地区包含層出土とする 292〃	財東大阪市文化財協会 1999『岩滝山遺跡第５次発掘調査概要』
5	大阪	岩滝山	東大阪市六万寺一丁目 780 番地	D 地区土坑 12	なし？	—	14 世紀中～	8.7	なし	-	良	？	〃13 世紀前半に廃絶され、14 世紀中頃までの遺物が出土する井戸３に切られる 388〃	財東大阪市文化財協会 1999『岩滝山遺跡第５次発掘調査概要』
6	大阪	若江	東大阪市若江本町、北町、南町	自然流路	？	青磁、白磁、施釉陶器（瀬戸美濃）、壺・擂鉢（備前）瓦質土器擂鉢・盤・火舎・羽釜・鍋・鉢、瓦器椀・皿など	中世～近世	5.7		-	良？	？	〃内外面ヨコナデ 600〃	財東大阪市文化財協会 1988『若江遺跡第 27 次発掘調査報告』
7	大阪	若江	東大阪市若江本町、北町、南町	自然流路	？	青磁、白磁、施釉陶器（瀬戸美濃）、壺・擂鉢（備前）瓦質土器擂鉢・盤・火舎・羽釜・鍋・鉢、瓦器椀・皿など	中世～近世	6.5	なし	-	不良？	有？	〃口縁部内外面ヨコナデ、体部内面はナデ 601〃	財東大阪市文化財協会 1988『若江遺跡第 27 次発掘調査報告』
8	大阪	梶原南	高槻市梶原４丁目 698-1、2	方形土坑	有	瓦器椀、台付皿、白磁碗・皿	11 世紀中～ 12 世紀後半	9.6	なし	-	？	？	〃内外面ヘラミガキ 201〃	高槻市教育委員会 1991『高槻市文化財年報　昭和 63・平成元年度』
9	大阪	讃良郡条里	四條畷市砂４丁目	0466 落ち込み	有	土師器皿、緑釉陶器埦、灰釉陶器埦、白磁碗、瓦器椀、瓦質土器釜、土師器鍋、砥石	13 ～ 14 世紀	6	なし	-	良？	有？	図 539-19	四条畷市文化財調査報告第 50 集・寝屋川市文化財資料 28・（公財）大阪府文化財センター調査報告書第 252 集　2015『四条畷市・寝屋川市　讃良郡条里遺跡』
10	大阪	水走遺跡	東大阪市水走・川中	B 地区第３遺構面　整地６		-	-	8.8	なし	-	？	？	362	東大阪市教育委員会・財東大阪市文化財協会 2000『水走遺跡第４次発掘調査報告』